





神皇

神皇正統記

卷之二

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

神皇

大槻文庫

限^りと波の舟^は住^す居^ゑ也^{なり}
世^よ渡^{わた}り^かて^す

國^{くに}見^みる^に 足^ある^に 西^{せい}洋^{やう}島^{しま}國^{くに}乃^の者^{もの}少^{すく}し^き 我^{われ}等^ら

枚^{まい}万^{まん}里^りの波^{なみ}濤^{たう}を凌^{しの}ぎ^て 東^{とう}洋^{やう}小^{せう}舟^{ふね}也^{なり} 常^{つね}に魚^{いさな}等^ら
業^{わざ}を営^いみ^て 波^{なみ}の^うち^を 寐^ね乃^の舟^{ふね}住^す居^ゑ也^{なり} 誠^{まこと}に猛^{まう}き^に
日^ひの^なれ^に 人^{ひと}の^{こゝろ}も^なら^ず 世^よを^たへ^り 如^{ごと}く^に 何^{なに}の^とも^なし^き 海^{うみ}の^はた^て 道^{みち}
く^に 舟^{ふね}漕^こぎ^て 飛^とび^かへ^り 何^{なに}の^とも^なし^き 存^{ぞん}在^{ざい}也^{なり}

39-7915

我ハ磯道ノ漕ヲヤスルハ。漁翁トスル小舟
小舟。さきより。ありて。浦邊。海山。くけて
泳めや。心の。固。ま。道。奇。と。同
んや。思。た。か。つ。は。同。も。浪。り。江。よ。か。漕
よ。て。船。一。や。め。た。す。も。多。く。一。し。り。を。焚
り。ゆ。も。か。軽。い。ん。ま。て。船。こ。ま。る。か。船。目。に。
や。晴。る。れ。後。り。より。あ。い。き。お。か。か。新。の。足。利

ぬ。あ。り。ぬ。は。り。是。こ。道。ハ。東。洋。の。舟。任。右。方
吳。人。の。も。て。赤。國。の。形。勢。以。何。あ。い。ふ。あ。さ
乃。者。船。小。給。ま。磯。道。ノ。船。と。せ。や。い。て
道。は。あ。り。り。子。細。と。最。も。す。り。て。い。ふ
それ。なる。舟。人。の。最。も。事。の。い。ふ。い。ふ
か。て。い。か。何。も。か。て。い。か。い。か。い。か。い。か
よ。れ。は。い。か。い。か。い。か。い。か。い。か。い。か。い。か

多。海は清くのもたれぬはたまたまた舟はせせ
りあり ^る さんか東も西洋も國々者少て
い。東洋も来り。新水もくきせぬ。然る足
まで来りたり。新水はくせぬを

何新水かしきとや。新水はくせぬは
去りし。海は清くも國々形勢は何も
少てはなき。 ^る 足はくせぬもくせぬは

と水はくせぬ威光の君は國々何と何と
るのり ^る 然るはくせぬは東洋
舟は古も ^る 東洋は勝れて入りぬ
鯨多しは海。漁りと営むは為。 ^上 船は海
し。 ^上 海はくせぬは ^上 海はくせぬは ^上 國
と何と何と ^上 船はくせぬは ^上 船はくせぬは
設け舟はくせぬ ^上 海賊と防ん

多。海は遠くのものにあらぬに、あまよふ舟はせめて
あり。 ^{東洋} 東洋の東も西洋の西も、
い。東洋に來り。新水は、
まて集りたり。新水は、

何れ新水か、
と云ふもの。海は、
おそはなき。

と云ふ。うねり威光の君、
るもの。 ^{東洋} 然るに、
舟は古き。 ^{東洋} 東洋の船は、
鯨多し。 ^{東洋} 漁りと、
し。 ^{東洋} 海は、
と何れ。 ^{東洋} 舟は、
設け舟は、

^{東洋} 海賊と防人

為子石火矢とは設けり。いやは石火矢の
こゝ海に。船の救りる中。白帆の横より
めき。その船。疑ひ波の時折れ。仲は見ゆり。
そゝと。いふや。舟の舞をえり。海に
傾け我舟と。船を委し。ちるま。いりる
事。いともやん。いふと。いふ。愚かり。我
非圖の人ら。皆。疑し。さ。家。お。ま。り。近。照。し。眼

の甚き。予。里。布。ま。さ。く。り。中。其。上。海。
家。民。の。ア。布。と。採。め。割。之。物。と。い。は。る。各。舟
一。仲。の。意。も。百。石。余。も。さ。ん。と。買。し。ま。二
艘。の。船。を。本。船。と。て。年。を。こ。し。積。り。再。救。を
多。れ。も。國。を。何。ふ。お。な。し。や。い。は。む。と。い
ま。い。り。な。や。何。と。言。へ。ん。と。の。意。も。波。の
あ。ら。う。な。は。り。も。い。は。す。君。り。御。國。を。い。我

ら。とき。乃。執。し。し。て。 した。や。し。く。何。も。
事。は。の。も。 日。上。 今。も。櫻。神。代。の。神。の。神。も。あ。て。
え。

東。照。る。に。て。は。は。ら。ん。目。の。本。代。
繁。ん。と。あ。ふ。ん。を。阿。の。神。て。あ。い。め。く。
り。せ。は。あ。身。ぢ。り。も。怖。り。や。悪。う。ぢ。り。も。ん。が。
夫。日。の。本。代。は。名。も。四。方。より。あ。ま。り。て。四。大。海。乃。
世。界。は。動。い。移。ら。ん。國。と。う。や。 凡。世。界。
帝。上。

よ。六。人。の。物。主。阿。我。ぢ。り。か。 業。久。し。き。
仰。せ。ま。て。は。我。ち。君。は。如。い。ぢ。り。 した。下。 され。ハ。
六。人。乃。物。主。隨。一。と。 仰。く。も。悪。う。ぢ。り。や。
天地。乃。開。ぢ。り。始。原。我。ち。清。む。と。天。濁。は。ら。 中。下。 中。下。
あ。い。も。分。せ。よ。し。 其。古。し。ハ。神。も。あ。れ。其。神。 中。下。 中。下。
遠。は。八。百。萬。集。い。謀。ふ。や。大。君。は。か。し。は。り。 中。下。 中。下。
す。り。我。皇。孫。の。天。降。り。に。し。者。を。せ。し。し。 中。下。 中。下。

傳て草も木も皆人君乃國なり
小や世に魚み民と怒む御心乃天は日嗣
来りて。取ぬ國の雨露に潤ひ住る民
種も靡き延ぶ秋は海乃神の教へるを
延き入る然れ神代の昔より 三種乃
神意傳りて御位を尊むる重なるは
智仁勇以表しは。今人志せざるを

のこしめし
かま。

字名とて事日の本乃矢はけの世なり
も神の教しれ教しや。 上
愚なる。 乃の翁もえあふも
我名や余もな浪のう。 乃代汲て煮つ
乃神の御代もをりぬ。 乃名は子笑の

塩竈乃浦れあづの翁たも。
おろくも

あゝ磯のまゝ向と焼て母よししそ神なりり

姉もまやなまゝと我まは神の御代をい

たきてまゝ國とちりれ瑞うね出てやろ

を浦巡りめを数夕日の新うはる波海を行

せえまはるまゝ立ゆらりても家神は謀

かよまゝいりりいりまゝとむも神威と

見下し。磯山はる教花の。唐よは

きれて矢より

今の光翁をたらんがはあまひにぬら

うふまをせしむ。い日の本乃道示れ神のあ

まをふりし。夕アの月も回の

五瓶もまはる浦の波。陽うわいけま塩釜の煙乃

行衛おちる。奇異の思ひとて

日上下

日
上
大
朝
堂
打
邊

ふ思傳や文行春の夜^{打邊}

月^{打邊}

西の海はに。いさる。約の。急を。賞
東なくも。え。た。新。新。最。も。け。た。り。ま
有。振。り。り。実。も。足。り。と。世。の。塵。も。濁。り。て。は。あ。る
瑞。の。ま。と。出。て。や。愛。に。取。り。ぬ。る。神。の。安。り
ゆ。き。た。り。後。上
抑。足。る。千。笑。の。浦。も。か
は。も。月。の。新。も。海。も。も。も。思。云。た。く。さ。の。塩。金

乃神なり。い。う。ま。ゆ。う。怪。ま。き。け。昔。西。海。も。志

舟。以。燒。討。せ。し。例。も。あ。り。又。蒙。古。十。万。の。兵

と。吹。拂。ひ。し。も。皆。我。神。風。の。ま。り。ま。り。今。も

後。せ。ぬ。我。國。乃。神。の。威。光。と。知。せ。ん。也。

日
上
江。の。さ。よ。あ。ま。せ。ぬ。い。て。約。の。蹄。を

波。お。き。り。も。糸。入。り。い。二。足。を。踏。ま。さ。ん。ハ

忽。ち。風。吹。起。し。海。水。を。波。倚。と。翻。り。た。り。

吳人の船を動揺して。既く久しう。其
久しうは。吳人の船の戦きさる。せん
か。なり。乃。亦。その。に。想。を。以。て。そ。る。え
た。り。け。れ。舞。臺。其。時。吳。人。は。平。伏。て。し。
あ。の。怖。し。や。ゆ。り。せ。ぬ。う。は。あ。は。れ。し。
國。子。は。後。か。ら。て。來。る。ゆ。り。と。其。い。と。わ。る。
こ。の。ゆ。り。と。以。て。神。の。意。を。乃。程。と。い。ふ。ゆ。
ゆ。

なれハ。其。時。ゆ。り。の。音。あ。る。ゆ。り。
海。は。忽。ち。平。ら。ら。ぬ。巖。に。吹。來。る。風。の。音。は。
初。め。ゆ。り。の。笛。の。声。破。る。ゆ。り。を。來。る。波。
乃。鼓。打。や。鼓。樂。の。調。子。た。く。て。波。風。靜。ま。
細。く。な。れ。ハ。吳。人。の。舟。の。遙。の。神。の。逸。の。い。
り。を。突。た。た。ひ。た。り。神。の。威。光。足。は。多。て。
も。夷。狄。と。防。ぐ。便。く。し。り。を。弩。炮。の。備。え。



OU
IV
L02